

2017年1月6日

プルデンシャル生命保険株式会社

知的障がい者の支援団体「渋谷区手をつなぐ親の会」に社内表彰賞金1万ドルを寄付

プルデンシャル生命保険株式会社(代表取締役社長兼 CEO 一谷 昇一郎)は、「渋谷区手をつなぐ親の会」(東京都渋谷区、堀口 智子会長)に1万ドルを寄付しました。当社では、3,800人を超えるライフプランナー(営業社員)の中から創業者の名を冠した「坂口陽史ゴールデン・ハート・メモリアル・アワード」の受賞者を毎年1人選定し、1万ドルの寄付先を選定する権利を贈っています。今年度受賞者の齊賀 資和(首都圏第一 エグゼクティブ・ライフプランナー)は、「渋谷区手をつなぐ親の会」を寄付先に選定しました。

齊賀が所属する首都圏第一支社では、1993年(当時渋谷支社)より毎年6回程度、社員がバザー、遠足、運動会、新成人を祝う会・新年会のお手伝いなど、「渋谷区手をつなぐ親の会」への継続的なボランティアを行っています。受賞にあたり、「23年に亘って活動が継続できていることは大変嬉しい。お子さんが心身ともに健やかに成長する一助にしてほしい」と「渋谷区手をつなぐ親の会」への賞金の寄付を決めました。

2016年12月26日に首都圏第一支社で開催された贈呈式では、齊賀が堀口会長に目録を手渡しました。堀口会長からは、「長きに亘ってご支援を頂いた上に、今回のご寄付に感謝いたします。ボランティアには、お子さんを連れて参加くださる社員の方もいます。このように子どもの頃から障がいのある人と触れていただくことで、障がいのあるなしに関わらず、お互い尊重しあえるような社会になるのではと感じています」と御礼の挨拶がありました。



「渋谷区手をつなぐ親の会」堀口会長(左)に目録を手渡し、当社首都圏第一支社 齊賀(右)

■「坂口陽史ゴールデン・ハート・メモリアル・アワード」について

プルデンシャル生命の創業者であり、米国プルデンシャル・ファイナンシャルの国際保険事業の育ての親である故・坂口 陽史を偲んで、2002年に創設された賞です。毎年、日本を含む世界9カ国の営業社員の中から、もっとも良き手本となった営業社員各1名に対して贈られています。「業績」に加え、「契約継続率」「コンプライアンス」「社会貢献度」などが評価項目となります。同賞では、受賞者の指定する慈善団体に1万ドルを寄付しています。

以上